

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立福小学校

令和8年2月

大阪市立福小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の児童は、素直で明るく、学年を越えて仲良く交流することができる。しかし、時には感情を言葉でうまく表現できなかつたり、集団に入りづらかつたり、友達の気持ちを考えずに行動してしまつたりする児童もいる。そのため、どの児童も安心して活動できる心の居場所としてのたてわり班を中心に据えた「学校集団作り」に継続して取り組んでいる。そして、子どもたちの自尊感情・自己有用感を高めることができる取り組みを工夫し、お互いのよいところを認め合い仲間を信頼できることを目指している。

学力面では、令和4年度「全国学力・学習状況調査」において、国語科は対大阪市の平均正答率が11ポイント、算数科は1ポイント下回っていた。令和6年度は、国語科は対大阪市の平均正答率が6ポイント、算数科は3ポイント下回っている。

国語科は令和4年度を5ポイント上回ってきているが、算数科は2ポイント下回っている現状である。

本校においては、国語科と算数科の学力の向上が大きな課題であると考えます。国語科の課題は、話す力・書く力をつけるためにも、読解力の向上に力を入れる必要がある。更に算数科でも基礎・基本の計算演習だけでなく、問題を読んで理解する力を身に付ける必要がある。そのためには個に応じたきめ細やかな指導を工夫していく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、45%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における国語の平均正答率の対全国比を1.00にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の80%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2（1年間の時間外勤務時間が720時間を超えないようにすること、1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとすること、1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること、連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないようにすること）を満たす教職員の割合を、令和7年度末に100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、86%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、44%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の83%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を100%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

《中期目標》

- ・ 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、87.5%と目標を下回った。(目標90%)
- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、95.6%と目標を上回った。(目標92%)

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は、56.3%と目標を上回った。(目標 45%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における国語の平均正答率の対全国比は、0.94 と目標を下回った。(目標 1.00)
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、75%と目標を下回った。(目標 80%)
- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の92.7%と目標を上回った。(目標 80%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は100%と目標通りであった。(目標 100%)

《年度目標》

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、95.6%と目標を上回った。(目標 92%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、79.2%と目標を下回った。(目標 82%)
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は、52.1%と目標を上回った。(目標 44%)
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、4年生は0.1ポイント、5年生は0.2ポイント上回ったが、6年生は3.5ポイント下回った。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は84.1%と目標を上回った。(目標 80%)
- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の92.7%と目標を上回った。(目標 83%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は100%と目標通りであった。(目標 100%)

タブレットを使った授業や、ペアやグループ、学級全体で意見を交流し、仲間と対話する機会を学習活動に取り入れた授業の工夫が、児童の深い学びにつながった。また、いじめアンケートを毎月実施し、一人一人がいじめをもっと身近な自分事として考え、全校児童が「いじめはどんな理由があっても許されるものではない」という強い気持ちをもつ意識が高まった。学校が安心・安全なみんなの居場所になるように今後も継続して取り組みたい。

一方、自分にもっと自信をもつことができるように、たてわり班活動を中心に、自尊感情・自己有用感を高める取り組みを次年度以降、より一層進める。また、運動遊びやスポーツは90%以上の児童が肯定的回答を選択していたが、児童がさらに夢中になるような運動遊びを体験できるよう、体育科や集会活動、運動週間の工夫を継続する。

大阪市立福小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、86%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、82%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1.安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>各学級で、いじめアンケートを毎月一回実施する。また、日頃から事象に応じて、いじめについて考える機会を設ける。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。 	B
<p>取組内容②【1.安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>看護当番の担当者や委員会活動を通して安全な学校生活の過ごし方について呼びかける。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、86%以上にする。 	A
<p>取組内容③【2.豊かな心の育成】</p> <p>たてわり班を活用し、異学年交流の機会を増やす。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 月2回以上たてわり班での児童集会を行う。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① いじめアンケートを継続して実施し、気になる児童や回答については丁寧に聞き取りを行うことで、いじめにつながる行為の早期発見、また未然に防止することができている。校内アンケートでは87.5%の児童が「いじめはどんなことがあってもいけないことである」と回答しており、いじめを許さない意識が高まっている。</p>	

<p>② 毎月の児童集会において、看護当番から児童に向けて、月目標についてや、児童の様子の中で危険だと感じられる遊びや行為についても丁寧に話して伝えてきた。また、健康委員会を中心に、健康や安全についての啓発活動も行った。校内アンケートでは、94.8%の児童が「学校のきまりやルールを守っている」という肯定的な回答をしており、児童の学校のきまりを守ろうという意識の高まりが感じられる。</p> <p>③ 月2回以上たてわり班を活用した集会を行ってきたことで、異学年での交流が活発になり、休み時間にも一緒に遊んだり、上級生が下級生を手助けしたりする等の姿が日常的に見られるようになった。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>① 今後もいじめアンケートを活用しつつ、日ごろからいじめに対するアンテナを張って児童を見守り指導していく。</p> <p>② 学校のきまりを守ろうとする児童の意識の高まりは感じられるが、廊下を走る、右側通行ができていない等、まだ十分定着していない部分もあるので、児童の実態に合わせた指導を継続していく。</p> <p>③ 今後も、たてわり班での活動や学校行事、クラブ活動、委員会活動等、異学年間で活動する機会を多く持てるようにし、思いやりの気持ちや互いを尊重する気持ちを育てていきたい。</p>

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、44%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、80%以上にする。</p>	<p>B</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4. 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各教科や活動において、児童が互いの考えや思いを交流し、学び合える学習形態を工夫する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、44%以上にする。 	<p>A</p>
<p>取組内容②【4. 誰一人取り残さない学力の向上】</p>	

<p>今年度の研究教科を国語科とし、言語事項の基礎基本の定着を図る。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間に全体研修 1 回、授業研究会を 3 回以上実施する。 	B
<p>取組内容③【5. 健やかな体の育成】</p> <p>運動集会などを通して、たてわり班や学年対抗で運動に親しめるイベントを計画・実施する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。 	C
<p>取組内容④【5. 健やかな体の育成】</p> <p>児童の規則正しい生活習慣が身に付くよう、子どもの発達段階に応じた指導を実施する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けんこうアンケートにおいて規則正しい生活を身に付けている児童の割合を70%以上を維持する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 各学級でペアや全体交流を工夫して取り入れた結果、話し合い活動が定着してきた。これにより対話の質も向上してきたといえる。学校アンケートでは「友だちとの話し合いで考えを深めたり広げたりしている」が 53.6%となり、目標（44%）を大きく上回る成果が出ている。これにより、目標を上回って達成した。</p> <p>② 年度当初の計画に基づき、授業研究会(1人1授業や効果検証授業を含む)を3回以上、研修会1回以上実施した。これらを通して、全教員で国語科の授業について研修することができた。これにより、言語事項の基礎基本の定着を図ることができたため目標を達成した。</p> <p>③ 学校アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、73.2%で目標に達していない。しかし、肯定的な回答は、94.8%と高い数値である。要因として、今年度はこれまでの運動強調週間に加え、鉄棒運動を実施したことや、休み時間や児童集会で異学年交流をしながら日常的に運動に親しむ機会を設けられたことが大きい。</p> <p>④ 健康アンケートにおいて「いつも同じ時刻に寝ている」「いつも同じ時刻に起きている」「朝食をとっている」の3項目すべてを肯定的に回答している児童の割合は70.1%であり目標を達成した。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 経年調査の結果においては目標未達の学年が見られる。そのため、今後も話し合い活動を継続しつつ、朝学習や授業内で基礎基本の習得や読書の時間を確保し、確実な学力の定着や底上げを図る必要がある。</p> <p>② 今年度の授業研究の成果と課題をふまえて、来年度の研究方針を定める。そして継続した学力の定着・向上を目指す。</p> <p>③ 学校以外で運動をする機会がない児童が多いことから、学校以外での運動習慣の定着を</p>	

図っていく。そのために体育科の指導では、「できなかったことができるようになった」喜びや「みんなで協力、交流してできた」楽しさを味わえるよう指導を工夫し、児童自身が進んで学習に参加できるようにすることが必要である。また、これまでの運動強調週間や児童集会での運動に親しめる取組を継続して実施し、運動やスポーツが苦手な児童も「体を動かすことは楽しい」と感じられるようにしていく。

- ④ 規則正しい生活の重要性については継続した指導が必要である。指標を学力テストの質問項目に合わせたものになっているが、「いつも同じ時刻に寝ている」という質問に肯定的に答える児童の就寝時刻が12時を過ぎている場合もある。事情により早い時刻の就寝が難しい家庭もあるため、児童の意識を問うような質問にしてもよいのではないかと。

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の83%以上にする。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2（1年間の時間外勤務時間が720時間を超えないようにすること、1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとすること、1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること、連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないようにすること）を満たす教職員の割合を、令和7年度末に100%にする。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6. 教育DXの推進】</p> <p>心の天気の入力が習慣になっていない児童に入力を促すために校内放送を流し、一斉に入力する時間を確保する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の83%以上にする 	A
<p>取組内容②【7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>前期後期制に移行し、教員の仕事を精選し児童と向き合う時間を増やし、またワークライフバランスを整える。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学期始めの五日間の短縮期間を設ける。 ・ 「ゆとりの日」を月に2回設定する。 ・ 長期休業中は、学校閉庁日を3日以上設定する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の92.7%となり、目標の83%を大きく上回った。要因としては、心の天気の入力が習慣化されてきたことや、朝の学習などでタイピング練習やデジタルドリル、コグトレに取り組んだことが大きい。また、タブレットの持ち帰りを行い、連絡帳をタブレット上で確認することなども挙げられる。そして、児童アンケートにおいて、児童の92.8%が「タブレットを授業で活用している」と肯定的に回答しており、普段の授業においても活用が進んでいるといえる。
- ② 前期後期制に移行したことで、長期休業中に集中して成績評価を行えるため、学期中の業務負担を平準化することができた。また、教員の業務内容を精選することで、児童と向き合う時間や教材研究にかかる時間を増やすことができた。そして、長期休業明けや学期始めに短縮期間を設けることで、授業準備などに取り組む時間を確保することができ、しっかりと児童と向き合って学習指導を行うこともできた。そして、ゆとりの日を設定することで定時まで業務を終えるように効率を考える意識が向上した。

次年度への改善点

- ① タイピング練習やアプリの活用により児童のタブレット活用は進んでいる。今後はその利用内容を深化させ、学力向上や生活指導に効果的に結びつける必要がある。心の天気を入力させることだけに注力せず、児童の心境の変化を的確に捉えられるようにしていくとともに、タブレットを効果的に活用している事例などを共有し教員全体のスキルの向上を図る。
- ② ゆとりの日によって、業務効率を考える意識が向上し定時に退校する教職員が増えてきたが、ゆとりの日であっても定時を超えて働いている教職員がいる。そのため学校全体として定時退校を促すしくみを構築する。